

Technical NOTE

導入コストをバリューに変える開発ツール IAR Embedded Workbench®



「IAR DevCon 東京 2018ダイジェスト」
<http://go.aps-web.jp/19-iar>
QRコードで最新情報をご覧ください。

増え続ける有償ツールへの 需要に応える

組み込みシステム開発に重要な役割を果たす、C/C++統合開発環境の代名詞と言えるIAR Embedded Workbenchは、高性能で高信頼性のコード開発を必要とするエンジニアであれば、世界中の誰でも直ぐに導入可能なツールである。製品開発全体に占めるソフトウェアの比重が70%を超えることが珍しくなくなった現在において、IAR Embedded Workbenchの高いユーザビリティと信頼性がもたらす開発期間の短縮や製品品質の向上は、非常に高い費用対効果をもたらすことが近年理解されてきている。そのため初期費用だけを理由に採用を見送っていたユーザからも、自社製品の市場におけるコンプライアンスを満たすために、IAR Embedded Workbenchを採用するケースが増えているのである。

時代の要請にユーザ視点で 迅速に応える

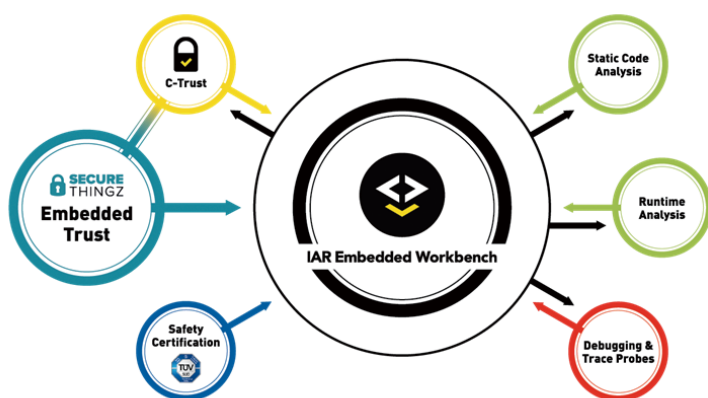
更に採用検討のテーブルに上がるCPUアーキテクチャがArm, Renesas, RISC-Vなど多岐に渡るため、それらを包括的にサポートしている唯一の商用ツールであるIAR Embedded Workbenchへの需要は高い。IARシステムズは特定の企業と資本関係を持たないツール専門メーカーのため、ターゲットとなるCPUアーキテクチャや半導体でデバイスが時代と共に変化したとしても、その時々において市場とユーザが求める製品のことだけを考え、柔軟かつ迅速に提供できるのである。また、日本の製造業であってもターゲットとする市場はグローバルであるケースが多いのは周知の通りだが、ユーザによる市場調査の結果から、ヨーロッパや北米における推奨ツールメーカーとして筆頭に挙がるのはIARシステムズだという声を多く聞く。ユーザとしてはグローバル市場でのシェアを取るため、開発ツールメーカーもグローバル企業を条件に選定しているのだという。IARシステムズはグローバルに展開しているセールス&サポートのネットワークを活用し、こういった視点を持つユーザとWin-Winの関係を構築している。

機能と性能と品質の要求に 高次元で応える

Armアーキテクチャ対応の最新版8.40以降ではデフォルトC言語がC18になり、任意の数の非対称マルチコア、C++17、PMUのパフォーマンスモニタウィンドウ対応といった様々な機能拡張が行われている。

2019年5月にはRISC-V向け商用版ツールIAR Embedded Workbench for RISC-Vを業界で初めてリリース。また、機能安全認証取得済みコンパイラのデバイス対応を拡充しておりRISC-V対応版も予定されている。

【告知】昨年に続いてIAR DevCon 東京 2019を10月29日に開催。事前登録を開始。
www.iar.com/jp/update/iar-devcon-tokyo-2019



MSP430 AVR 8051
STM8 MAXQ その他

統合開発環境とそれを補完するツールチェーンを包括的に提供することでユーザの利便性を最大化している

製品や購入についてのご相談をお待ちしています <https://www.iar.com/jp/buy>
製品のメリットがより分かる動画をYouTube公式チャンネルでご紹介しています
https://www.youtube.com/channel/UCeq73PKoKffdqzXS0H4mK_A



IARシステムズ株式会社
<https://www.iar.com/jp/>